

公益社団法人日本技術士会東北本部 岩手県支部事業活動報告

事業名	第4回 建設ICT生産システム研究会 (CPD 番号 -)
委員会・研究会名	建設ICT生産システム研究会
日時	平成27年2月3日(木) 15:00~17:00
場所	岩手大学農学部 2号館
参加人数等	会員10名 国交省1名 岩手県1名 岩手大学3名

活動内容

1.第4回会合の開催

本年最初の研究会では、前回(11/27)の現地検討会で行ったUAVによる空中写真計測による取得データの処理解析結果に基づいた発表がなされました。

今回の会合には岩手河川国道事務所より1名、盛岡広域振興局土木部より1名、そして岩手大学農学部より3年生の学生3名にも参加していただきました。

2.発表内容

発表の要旨は以下の通りです。

①現地検討会におけるUAVによる空中写真計測及びデータ処理解析について

②UAVによる3Dデータの設計実務への利用について

【発表内容と質疑応答の概要】

●測量図として

- ・精度は実測と同等と認められ、状況によっては、それ以上となっている。
- ・高精度故、断面図の地盤線が折れ線状に表現されるが、直線状に処理すべきか。
- ・河川災害では水面部は実測による補測が必要となるが、道路災害や斜面災害では水面部の問題が無い。
- ・崩壊斜面のように実測では危険を伴う場所の地形測量に有効である。

●3次元画像として

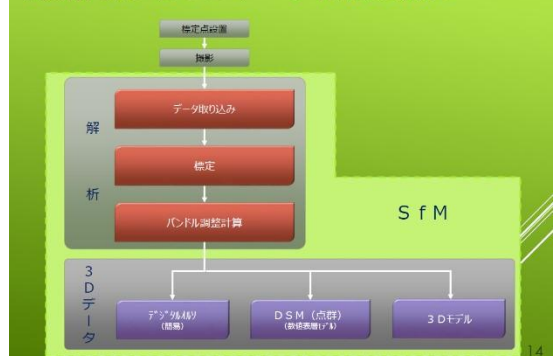
- ・現地調査の事前資料に利用することで、現地調査の効率化が可能となる。
- ・災害査定申請箇所と延長を高精度に把握できれば初動時に有効な資料となる。
- ・崩壊地の面積、崩壊量などの情報が得られそうだ。
- ・住民説明会での資料に効果的である。

3.次回の予定

- ・施工への利用もテーマとして検討する。



写真解析から3Dデータ作成の流れ



UAVを活用した現地測量の手順 (1/4)

1. 災害申請箇所ならびに延長の決定
・施設管理者(発注者)と一緒に決める
2. 中心杭を現地に設置する
3. 中心杭にUAVで観測できる標定を設置する



(※ 活動状況の写真を貼り付けてください。)